

侵略美化の「つくる会」の歴史教科書 採択の危険性

「新しい歴史教科書をつくる会」のメンバーが執筆した中学校の歴史教科書(自由社発行)が、夏に行われる教科書採択の対象になり、横浜市では「つくる会」の教科書が採択される可能性がでています。

「つくる会」の教科書推薦の今田氏が教育委員長

横浜市では、専門家による教科書調査と区ごとの学習実態調査をもとに、教科書取扱審議会が審議して区ごとに答申をだし、それを受けて市教育委員会が教科書の採択を決定します。

今回は1社の歴史教科書だけが調査の対象ということで、区毎の実態調査は行われません。

前回2005年の教科書採択の際、今田教育委員(現教育委員長)は扶桑社版の「つくる会」の歴史と公民の教科書が「一番ふさわしい」「一番望ましい」と主張しましたが、伯井教育長(当時)が審議

採択の仕組み改編の動きも

横浜市教育委員会は6月、2010年度の教科書採択地区を現在の市内18区毎から全市1地区に変更することを県教育委員会に要望。これを受けて県教育委員会は10月にも決定する見通しです。

6月議会では、自民党の斉藤達也議員が「18地区ごとに教科書を採択することには課題がある」「教科書取扱審議会に諮問をし、答申を受ける仕組みにも改善が必要」とのべたのに対して、田村教育長は「横浜型小中一貫教育を進めるなか、それらにふさわしい教科書採択地区数や教科書取扱審議会のあり方について見直しを図っていくことが必要」と答えました。

日本の侵略戦争を美化する「つくる会」の歴史・公民教科書採択を望む勢力にとって、慎重に調査・審議する取扱審議会はじゃまな存在であり、市内一斉に採択できない区別の採択区はやっかいだということでしょうか。

会の答申を最大限尊重したいとのべ、採決の結果審議会の答申通りの教科書が採択されました。

今回は、前回「つくる会」の教科書を強く推した今田氏が教育委員長、田村教育長が伯井前教育長のように審議会の答申を尊重するのもかも疑わしいため、たとえ審議会で「つくる会」の教科書が採択されなくても、教育委員会で覆されて採択する危険性もあります。採択を許さない世論づくりが急務となっています。

「つくる会」分裂

扶桑社と自由社、同様の教科書発行

「新しい歴史教科書をつくる会」は2006年に内紛の末分裂し、扶桑社と絶縁。その結果、新たに自由社から発行するとして、昨年文部科学省の教科書検定を申請し、今年合格しました。

しかし、中学では2012年度から新学習指導要綱が完全実施されるため、今年合格した教科書は2011年度までの2年間しか使われません。自由社以外の各社は検定申請せず、現行の教科書を継続発行します。

自由社版の教科書の内容は扶桑社版とほぼ同じで、アジア太平洋戦争を「『自存自衛』のための戦争」と記述し、侵略戦争を正当化するなど国内外から批判の声があがっています。

教科書の展示会は、中央、神奈川(~7/5)、保土ヶ谷(6/29、7/3~5)、磯子、都筑(~7/2)の各図書館で実施中です。

メール受信にご協力をお願いします

FAXNEWS「横浜市会ほっとライン」は、民主団体やご希望の方にファックスのほか、メールで送信を行っています。メールの方が、通話中ということもないため確実に届き、また送信単価も安くなっています。そこで、日ごろインターネットやメールをご利用の方は、できるだけメールでの受信にご協力をお願いします。ご協力いただける場合には、info@jcp-yokohama.comにメールを送信してください。なお、市議団ホームページ(<http://www.jcp-yokohama.com/>)でもご覧になれます。